

カジノ大手の「大阪詣で」



写真の日本経済新聞 1 月 31 日朝刊「迫真 大阪万博再び 3」は IR、過熱する「大阪詣で」。大阪「カジノ万博」の動きとして紹介する。

「きょうで 42 歳になった。これからは毎年、皆さんと誕生日にお会いしたい」。1 月 16 日、大阪府庁ではカジノを含む統合型リゾート（IR）大手、香港メルコリゾート&エンターテインメント最高経営責任者（CEO）のローレンス・ホーが大阪府知事の松井一郎らと向き合った。訪日 300 回を超し、行きつけの東京・銀座のすし店をマカオの IR に招致したほどの親日家だ。「大阪に進出できるなら本社機能を移し、家族と引っ越す」と訴えた。

万博の舞台となる夢洲は、大阪府・市が誘致する IR の候補地でもある。府市などは IR の経済効果を建設投資 7600 億円、運営で年 6900 億円と試算。2024 年度までの開業で万博との「競演」をもくろむ。東京や横浜が誘致方針を明示しない中、大阪を国内有力地と踏んだ海外 IR 事業者の表敬訪問は過熱、昨年 11 月の万博決定以降、5 社に上る。

「オオタニはいい選手だ」。メルコが訪問した前の週、米リゾート・インターナショナル会長のジェームス・J・ムーレンは知事との面会前に、米大リーグ・エンゼルスの大谷翔平をまねて自らの腕を豪快に振り下ろし、府市職員らを沸かせた。会談でも松井に「万博が決まり、世界の目が大阪に向いた。経営資源を大阪に注ぐ」と直球を投げた。

「どこも世界トップ 10 の顔触れ。交渉相手が多いほど地域貢献度が大きい事業者を選べる」と松井。大阪市を廃止する看板政策の都構想の実現は難航するが、IR では舌は滑らかだ。

同紙 1 月 16 日朝刊の関連記事も切り抜いていたので紹介しておきたい。

香港カジノ大手のメルコリゾート&エンターテインメントは 15 日、大阪・夢洲で開業をめざす統合型リゾート（IR）の構想を発表した。総事業費は 100 億米ドル（約 1 兆円）超を見込むといい、同社として世界最大規模の施設になるという。大阪での IR 開発が実現すれば、本社機能を大阪に移す計画も明かした。

同日、ローレンス・ホー最高経営責任者（CEO）が大阪市内で会見を開いた。テーマは「未来の街」。「先進技術や近代的な建築と、歴史・伝統が共存している」（ホーCEO）日本の特徴から着想を得たという。会見で披露した CG 映像には大規模な商業施設のほか、電気自動車やドローンも登場。「夢洲は（IR 用地だけで）70 ㌦と広大な島。持続可能で移動しやすい手段も考える」。自動運転などの最新技術を活用し、同じ夢洲を会場とする 2025 年大阪万博の方針とも「完璧に合致する」と強調した。

総面積や各種設備の具体的な配置は今後詰める。高層階にホテル、中層階に商業施設、低層階にカジノを想定している。

(2019 年 2 月 12 日)